



出産予定日に関するよくある質問

Q2: 出産予定日が妊娠初期に修正される場合もあるの?

答え=○ 排卵が最終月経から2週間なら、予定日は40週となります。しかし排卵が月経から4週もたって起こった場合、42週が予定日となり、これを40週に修正する必要があります。この場合最終月経から11週の時に胎児の大きさが2cmであることから9週相当と分かり(この時点で胎児のサイズに個人差なし)、11週を9週に修正するのです。修正しないと本当はまだ38週なのに予定日だといって慌てることになります。

0週	排卵整調	排卵遅れ
1週	最終月経	最終月経
2週	排卵=懐胎	
3週		
4週		排卵=懐胎
9週	体長 2cm	
11週		体長 2cm→9週
40週	予定日	38週
42週		予定日→40週

Q4: 予定日ちょうどの出産って1割もないって本当?

答え=○ 正常な出産期間は妊娠37週から41週まで35日間に分散しますので、下の図のように、予定日ちょうでに生まれるのは初産で5.6%、経産で4.8%にすぎません。しかし、特に初産では予定日が最も多く生まれている日であることにご注目ください。

Q6: 2人目の方が1人目より早く生まれるって本当?

答え=○ 下の図を見れば、経産の方が初産より生まれた時期が左側つまり早期にシフトしているのが分かります。その差は2日ですが、統計学的に意味のある差です。当然個別には「私は2人目の方が遅く生まれたわ」という事例はいくらでもあてはまるでしょう。

Q7: 胎児が大きめと言われたら早く生まれるの?

答え=× (おそらく) 胎児がある一定の大きさになったら陣痛が来るわけではないようです。双子の人は2人合わせて5kgをさらに超えます。大きいのに予定日を過ぎてさらに大きくなる子もいますし、小さめなのにせっかちで早めに生まれてくる子もいます。

Q8: 予定日の出し方の9-3-7っていつも正しいの?

答え=× 出産予定日は最終月経初日の月に9を足すか足せなければ3を引き、日に7を足せば簡易算出できます。しかし2月や30日の月の絡みで、7が6、5まれに4になることもあります。

Q1: 赤ちゃんはお腹の中に40週間いるの?

答え=× 出産予定日はご存じの通り妊娠40週0日です。その起点となる0週0日は最終月経の初日であり、この時点でまだ赤ちゃんは存在しません。月経周期が28日型の順調な方なら月経から2週間(14日)で排卵し、そこで懐胎します。すなわち懐胎日から出産予定日まででは38週間(266日)となるわけです。なぜ予定日を最終月経から計算するかというと、最終月経は排卵日と違い誰もが分かるから(忘れていなければ)です。基礎体温をつけていたり、不妊治療を行っていて排卵日が正確に分かる方は、排卵日を妊娠2週0日としてその38週後を予定日とすればより正確です。

Q3: 離婚300日問題の民法772条って、産科的にすごい?

答え=○ 民法772条によれば、「婚姻の解消から300日以内に生まれた子は、婚姻中に懐胎したものと推定する」とあります。もし離婚した日に懐胎した場合、266日目が予定日(40週0日)となり、300日目は44週6日とまずあり得ない期間となります。ですから離婚後300日以降に生まれた子は絶対離婚後に懐胎したといえます。明治29年の民法制定で、この300日という必要最小限で切りの良い数字にしたことは、産科学から見て慧眼といえます。注:2007年以降は医師の証明書があれば772条の推定が及ばないとされます。

Q5: 妊娠39週0日なら、1週間以内に生まれる方が多い?

答え=× 下の図で妊娠39週0日の人が1週間以内(緑色の期間)に生まれる確率は、緑の人数を緑+水色+青+紫の人数で割った値となります。これを計算すると、初産で34.0%、経産で46.7%にすぎません。ぜひあせらずにお過ごしください。

《産科雑報》▼3月9日に顕微授精にて受精し、3月11日あの東日本大震災の日に胚移植して妊娠された方がこのほど女の子を出産されました。▼当院では胚移植は午前外来終了後の午後2時か、業務終了後の午後6時に行っています。この方は3月11日の午後6時に移植予定でしたが、当方の都合で午後2時にさせていただいたのでした。ご承知の通り大震災は午後2時46分に発生したため、もし6時としていたら、あの未曾有の災害のあとで冷静に処置できたか分かりません。「こんな運のいいケースは絶対妊娠していますよね」と胚培養士の吉田が言っていたのを思い出します。▼震災後によく流されたACの「ぼぼぼぼ〜ん」のCMがずいぶん昔の気もしますし、逆に瓦礫の処理も未だままならず震災はつい昨日のような気もします。赤ちゃんがお腹の中にいる期間もそんな長さです。

